

第5次調布市男女共同参画推進プランの取組状況に対する意見

調布市男女共同参画推進プランに基づく各重点事業の実施状況について、調布市男女共同参画推進センター運営委員会として、次のとおり意見する。

○重点事業の実施状況を調査・分析した限りにおいて、各所管課がそれぞれの行政目的の達成に向け各種事業を推進する中で、いずれの事業についても、おおむね男女共同参画の視点を持って取組が実践されている一方、留意事項として、以下の事項について指摘する。なお、全体を通じて、評価指標の数値から社会全体の流れや世の中のニーズを的確に捉え、今後の取組に反映されたい。

- ・ 固定的な性別役割分担意識は、男性に「男性らしさ」を求める要因となるなど、男女とも、生きづらさや悩みを抱える原因になっている可能性がある。計画策定の段階で想定はなかったものの、近年の背景や要望を踏まえ、男性のための相談を開始したことは評価する。女性のみならず、男性にも着目した事業を継続して実施するなど、固定的な役割分担意識の解消に向けた取組を推進されたい。
- ・ DV等の防止については、相談窓口の周知の充実など、様々な取組を実施していることは評価する。一方で、評価指標の数値は、目標値に比べると依然として低い水準にあることから、引き続き、DVに関する課題認識を持ちながら、計画期間内に目標値を達成できるよう取組を推進されたい。
- ・ デートDVについては、低年齢の段階からの啓発は重要であることに加え、実際に被害に遭いやすい年齢への啓発も必要である。出前講座の対象を、中学生だけでなく高校生や大学生等にも拡充することを期待する。
- ・ ワーク・ライフ・バランスについては、年齢層にかかわらず、仕事と家庭生活の両立を図ることが重要であることから、子育て支援だけでなく、介護への支援についても取り組んでいく必要がある。子育てと介護など重層的に家庭生活を支援し、仕事との両立が図られるよう取組を推進されたい。
- ・ 生活上の困難に対する支援の満足度は、評価指標の数値だけでなく、実際に困難を抱えている方やサービスを利用している方の意見を把握することで、実態がより見えてくる

と考える。緊急度が高い支援であることから、実態に即した支援に取り組まれない。

- ・ひとり親家庭への支援に当たっては、ホームヘルパーなどのサービスの活用が生活時間の確保などにつながり、仕事と育児を両立するうえで大切である。一方、精神的な支援も必要であることから、地域とのつながりを通じて、困り事や悩み事を気軽に話せる機会を確保するなど、ひとり親家庭が安心して生活できる支援に取り組むことを期待する。
- ・意思決定の場への女性の参画を増やしていく際、集団の中で、たとえ大多数でなくても存在を無視できないグループとなるための分岐点は、一般的に30%と言われている。審議会等の女性委員の割合において目標を40%としているなか、今回、評価指標の数値が低下し、この分岐点付近の結果となっている。目標値達成に向けて取り組むのは当然ながら、少なくともこの分岐点を下回るようなことは避けるべきと考える。数値が上昇するよう取組を推進されたい。
- ・課長職以上の女性職員の割合を高めるには、職員の採用や昇任の決定に女性職員が携わることが重要である。理由として、無意識のうちに、同性を選択する傾向があるからである。また、魅力的で住みやすい街づくりには女性の視点が重要であることから、特に技術職が多い部署であっても女性管理職が適切に配置されるよう取り組まれない。さらに、女性職員が昇任に対し障壁を感じることはないよう、管理職になっても働きやすい環境整備の取組を、引き続き推進されたい。

令和6年7月18日

調布市男女共同参画推進センター運営委員会

委員長 神永 典郎

副委員長 金子 ひろみ

委員 浅野 愛

委員 五十嵐 耕大

委員 片岡 寛子

委員 林 祥子

委員 森下 純一

委員 山本 弥和